

□議員名：進化 松尾数則

1 新市長のトップセールスについて

論点	企業誘致について考え方は
回答	小野田楠企業団地は折衝中のものが3社程度ある。これからも県とも密に連携をとりながら市長自らがトップセールス的に出る場面についてもタイミング等を図り1社でも多くの優良企業を誘致したい。

論点	シティセールスについて今後の展開は
回答	都市が持つ魅力を対外的に、より効果的にアピールを行い新たな交流人口や定住者の増加、企業立地の促進を目的に魅力の見える化、情報発信力向上等を図りたい。市長のトップセールスも必要で、効果的な仕組みや方法を十分検討しながら、現在策定作業を進めている第2次総合計画にも盛り込んでいく。

論点	シティセールスについて今後の方針は
回答	市のホームページ、フェイスブック、マスメディアなどを活用して今後もターゲットを明確にしながら、本市の魅力を伝えていきたい。SNSの利用も効果的である。産学公民が一体となりシティセールスを実践することで自治体の魅力の強化、イメージ向上、情報発信力向上さらには交流定住人口の増加を目指したい。

論点	シティセールスの専門部署の設置は
回答	シティセールスは多岐にわたる横断的な部署の連携業務が多い。山陽小野田市は担当部署が無くPRの仕方が他市に比べて低いと言われている。専門部署については検討したい。

2 大学の特性を活かしたまちの取り組みについて

論点	頭脳集団、若いエネルギーを活用した起業家支援についての考えは
回答	山陽小野田市創業支援事業計画を策定した。山口東京理科大学は本市の創業支援に関する連携機関と位置づけている。残念ながら、現時点で起業家の方の山口東京理科大学の技術、知識をマッチングした事例は無いが、引き続き山口東京理科大学と連携しながら、起業家支援を進めていきたいと考えている。

論点	地元産業界との連携についての考えは
回答	大学には発展のためのシーズが多く内在している。これらを発掘し、企業側のニーズに結びつけるマッチングやコーディネートが不可欠である。山陽小野田市産学官連携推進協議会をプラットフォームと位置づけ大学の地域連携室やコーディネーター等も活用し、地元企業と大学の間を縮める取り組みから始めたい。

3 地域交通網形成計画について

論点	公共交通の維持・活性化についての考えは
回答	山陽小野田市地域公共交通網形成計画に基づき、持続可能な公共交通の形成に向けた再編の検討を進めている。計画期間は平成32年度までの5年間とし、効果的、効率的な公共交通網、わかりやすく、利用しやすい公共交通、みんなで支える公共交通といった3つの基本方針を設定し利便性の高い公共交通網の構築を図っていく。